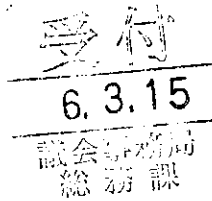


(様式2)



令和6年3月15日

京丹後市議会議長 様

会 派 名 丹政会

代表者氏名 中野 勝友 ㊞

調査研究等報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

- 1 日程 令和5年10月17日(火)～18日(水)
- 2 場所 日本青年館ホテル8階
- 3 目的 清溪セミナー実行委員会が主催する清溪セミナーへの参加
- 4 該当する政務活動費の使途項目
研修費
- 5 支出経費の内訳と金額
227,200円
- 6 参加議員名
池田恵一、中野勝友、東田真希、和田 晋
- 7 調査研究成果の概要、所見
別記のとおり
- 8 成果物・参考資料等 別記のとおり

(別記)

「第 28 回清溪セミナー」報告書

講義Ⅰ

「二人は同時に親になる～『産後』のずれの定重」

講師:狩野さやか 氏(育(アトバイサー・テイター)

- ・育児はひとりでできる分量ではない。男性でできないことは授乳だけ。
- ・日本の育児休業制度は世界トップクラス。制度は整った。取得しないのは誰？
- ・職場の意識を変える。自治体では難しいのではないかと。会社が取らせないのでなく、男性の意識が向かっていない。また小さい会社、フリーランス、非正規の問題が残っている。

講義Ⅱ

「地域における顔の見える切れ目ない子育て支援」

講師：井上登生 氏（小児科医）

- ・母子手帳交付の段階から妊婦の支援体制をしっかりとっていくこと
- ・若年妊婦の増加、教育との連携強化。望まない妊娠を防ぐ「思春期保健対策の充実」
- ・精神保健における地域移行が進んだ。母子のメンタルヘルスを支える仕組みが必要。精神障害者の出産など、医師、保健師、産科医などが情報共有、連携の事例

講義Ⅲ

「子どもたちのこころと命を守るために～学校にアウトリーチする～」

講師:重永侑紀 氏

(にじいろ CAP 子ども NPO センター福岡代表理事) ※ 児童相談所を受託

- ・全体の児童生徒の薬と自傷行為をした割合 17% (国立精神研究センター)
- ・700年前から人類は地域、社会で子育てしてきた。
- ・子育てをしていない8割の人たちに子育てを自分ごとにしてもらう
- ・こども基本方法により指導堤要変わった。教育委員会が同じベクトルを向いた
- ・NPO を育てていく、気運を醸成していくのが議員の仕事

講義Ⅳ

「こども家庭庁の創設とこども政側」

講師：山田太郎氏(参議院議員)

- ・虐待、不登校、高校で半数は中退（通信）
- ・SSW 一校 1 人配置したいが人材不足。
- ・子どもが死なない国にする。
- ・地域として子どもたちをどう守っていくか。各自治体で考えてほしい。
- ・行政の限界。民間も含めて支援体制を作っていくか。
- ・子どもは霞ヶ関、永田町にいない。現場の声を国に届けてほしい。

講義Ⅴ

「子どもを本気で応援すれば、まちは元気になる」

講師：泉房穂氏(前明石市長)

- ・セーフティネットとは別に子どもは未来。地域経済対策である。
- ・子どもに対しては全部やる。選択と集中はしなくてよい。
- ・子どもは親の持ち物ではない。最大の敵は親。
- ・現金ではない、息の長い安心を提供する。病児保育。養育費。
- ・してもしなくてもいい事業をやめる
- ・子どもの貧困は政治のせい。子供の命をまもることが政治の責任。
- ・見るべきは隣町ではなく我がまち。自分の目で見ること。
- ・自治体間で無償化競争は望ましくない。
- ・無償化は国がやればいい。寄り添いは自治体がやる。
- ・人の痛みに共感できる。想像力が政治。想像力を育むのが本。他者に対する共感力。
- ・本のまち。図書館。貧乏な子どもでもいい絵本を読めるまち。
- ・共助を公助で応援する。
- ・議会はチェックが基本。限界はある。

講義Ⅵ

「ヤングで終わらないヤングケアラー」

講師：仲田海人氏（作業療法士）

※ 平成5年生まれ。姉が障害者。残酷な家庭環境。自身がケアラーだった。

- ・きょうだいのケアラーが一番多い
- ・大人の対応が変わらないと子どもの絶望が増える。
- ・介護保険 10 兆、ビジネスケアラーの経済損失 9 兆円
- ・本人からの相談は少ない。第三者からの相談。地域のネットワーク作りが大事。

- ・学校の先生が窓口になることが多い。先生は気づいている。
- ・相談の後、つなぐ、連携することが大事。相談だけではなく伴走。
- ・学校の先生には本来の専門性を発揮してもらいたい
- ・地域のコミュニティの重要性（日頃から地域で関わっている大人）
- ・支援のネットワークや支援の選択肢、こどもの権利を守るために支援につなげられる専門のコーディネーターが必要。

講義

「すべての子どもの成長と、子育てを支えるためには」

講師：野田聖子氏（衆議院議員）

- ・出生数70万人。経済が成り立たない。いきなり子どもが減ったわけではない。子どもを産みにくくさせている。18歳から29歳コールデンエイジが減っている。
- ・単独世帯4割、東京は5割。単独、夫婦のみの地域社会に対しての支援を行っていく必要がある。3世代を望んでいない事実
- ・都市以上に地方は男女の賃金格差が激しい。女性を雇うことはリスク。女性は地方に戻って自分の能力を発揮できるのか。
- ・3組に1組に離婚。別れた後の女性貧困。非正規。養育費は子どものため。罰金刑。取れるものを取らずに生活保護は間違っている。こども食堂に行かなくていい環境をつくる。
- ・16万人が中絶。経済的理由、過疎地域、リピートが多い。一方で2万人が体外受精している現実をどう考えるのか。

以上



住民主体の地方自治を進めるために

1日目 10月17日(火)

開講式・オリエンテーション ——— 12:30 ~

講義Ⅰ ——— 13:00 ~ 14:20

二人は同時に親になる～
『産後』のずれの処方箋

講師：狩野 さやか 氏 [子育てアドバイザー・ライター]



早稲田大学卒。2015年より育児視点でジェンダーを考える「patomato」を運営。両親講座等を通して夫婦の育児協力体制を築くきっかけ作りをしている。著書に『ふたりは同時に親になる 産後の「ずれ」の処方箋』。

講義Ⅱ ——— 14:30 ~ 15:45

地域における顔の見える
切れ目ない子育て支援

講師：井上 登生 氏 [小児科医]



1983年福岡大学医学部卒業。小児科入局。1987年英国ロンドン大学児童・青年期精神医学部門の世界初の小児保健と児童・青年期精神医学部門合同研修コース第1期生として参加、DCAP取得。1994年大分県中津市の井上小児科医院3代目院長。福岡大学臨床教授併任。

講義Ⅲ ——— 16:00 ~ 17:10

子どもたちのこころと命を守るために
～学校にアウトリーチするNPO～

講師：重永 侑紀 氏 [にじいるCAP
子どもNPOセンター福岡代表理事]



子どもへの暴力防止(CAP)プログラムやペアレントトレーニングプログラムを活用しながら各自治体と提携している「にじいるグループ」代表。これまでに16万人の子どもたちの相談を聴きつづけてきました。

講義Ⅳ ——— 17:15 ~ 18:45

こども家庭庁の創設とこども政策

講師：山田 太郎 氏 [参議院議員]



製造業専門コンサルティング会社創業、のちマザーズ上場。東京工業大学特任教授、早稲田大学客員准教授、東京大学非常勤講師等を歴任。12年比例復活で参議院議員、19年自民党公認で再選。表現の自由を始めとし、デジタル政策、知財政策、子ども政策など様々な分野を担当。

第28回 - SEIKI SEMINAR -

清溪セミナー

2023年10月17日(火)～10月18日(水)
日本青年館ホテル 8F カンファレンスルーム

※感染症を含めた社会情勢および主催者の都合によりプログラムが変更となる場合がございます。予めご了承ください。

2日目 10月18日(水)

講義Ⅴ ——— 9:00 ~ 10:30

子どもを本気で応援すれば、まちは元気になる

講師：泉 房穂 氏 [前明石市長]



1963年、兵庫県明石市生まれ。県立明石西高校、東京大学教育学部卒業。NHK、テレビ朝日、石井紘基氏の秘書を経て、弁護士、社会福祉士。衆議院議員を経て、2011年から2023年4月まで明石市長。

講義Ⅵ ——— 10:45 ~ 12:15

ヤングで終わらないヤングケアラー

講師：仲田 海人 氏 [作業療法士]



栃木県生まれ(29)。栃木県那須塩原市ヤングケアラー協議会立ち上げメンバー。栃木県ケアラー支援推進協議会委員。とちぎきょうだいを運営。小学校高学年の姉が不登校になり後に統合失調症を発症しきょうだいヤングケアラーとなる。現在はフリーランスの作業療法士。著書に『ヤングでは終わらないヤングケアラー～きょうだいケアラーのライフステージと葛藤～』。

昼食休憩 ——— 12:15 ~
(各自でお召し上がりください。)

講義Ⅶ ——— 13:15 ~ 14:45

すべての子どもの成長と、
子育てを支えるためには

講師：野田 聖子 氏 [衆議院議員]



昭和35年9月3日 福岡県生まれ。昭和58年3月上智大学卒業後、帝国ホテルに入社。祖父・野田卯一の後を継ぎ、平成5年7月第40回衆議院議員総選挙に出馬し、初当選。以来10期連続当選。郵政大臣、総務大臣、内閣府特命担当大臣などを歴任。現在、自由民主党情報通信戦略調査会長に就任。

閉講式 ——— 14:45 ~ 15:00

主催：清溪セミナー実行委員会

共催：一般財団法人日本青年館